

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和6年12月16日
長崎市立畝刈小学校
学校だよりNO.104
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中教育＞

～なかよし集会～

12月4日から12月10日まで人権週間でした。この週間にかかわらず、畝刈小学校では「特別支援教育」「人権教育」に視点を置いた「子供ど真ん中教育」を進めています。この日人権平和委員会の子供たちを中心に「なかよし集会」を開き、「人権の大切さ」についてみんなで確認しました。



今回は、4年生と6年生が発表を行いました。



4年生は総合的な学習の時間に福祉の学習をしています。先日も認知症サポーターリーダー養成講座を受け認定証を受け取ったということはお伝えしていましたが、この日は、これまで学んできたこと「体の不自由な人について」「目の不自由な人について」「認知症の人へのかかわり方について」等、グループに分かれて発表し理解を深めました。



様々な状況のなかで生活をしている人たちが、幸せに過ごすことができるようにするためにはどのようなことをしていかなければならないのか、みんなで一緒に考えました。



6年生は劇を通して日常にある「モヤモヤ」について考えました。例えば、友達に注意をしたときに「君には関係ないだろう」と言われることがある。「関係ない」という言葉。みんな同じ空間、日常を生活している中で、関係ないということはなく、みんなかかわり合い支え合って生きており、積極的にかかわっていくことで「いじめや差別がなくなる」



今の私たちに必要なことをしっかりと考え発表しました。最後に6年生全員で合唱しました。とても心に響く歌声で、体育館にいる全員が6年生の歌声に聴き入っていました。



次に各学年「人権宣言」を行いました。

1年生・・・みんな なかよし

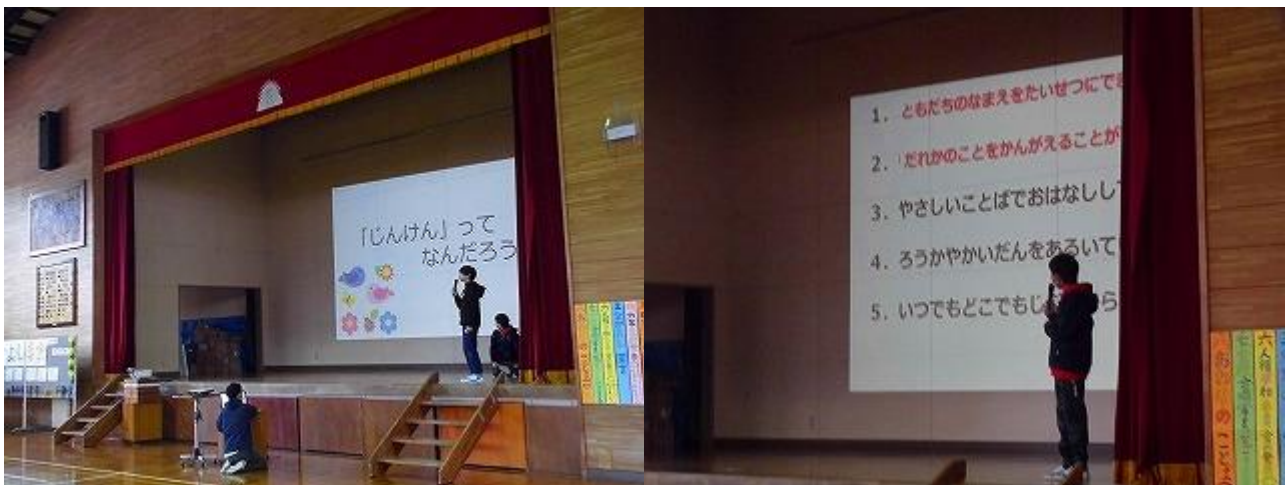
2年生・・・ともだちに やさしくしよう

3年生・・・自分が言われて うれしいことばをつかいます

4年生・・・知ろう 自分 みとめ合おう 友だちのよさ

5年生・・・〇〇キャッチボール 誰が聞いても温かい気持ちになる言葉遣いをしよう

6年生・・・違いを認め 心をつなぐ



主催の人権平和委員会からは「人権とはなんだろう」と、人権が考えられてきたこれまでのことについて発表し、最後に5つ、みんなが普段実行してことについて考えました。

「優しい言葉で話をしている」「廊下や階段は歩いている」「いつでもどこでも自分から挨拶をしている」等です。「みなさん、いくつ当てはまったでしょうか」という問いかけをしていました。

人権は特別なことではなくて、普段からみんなで考えていくものであるということを確認しました。



集会の最後は、全校のみんなでの合唱です。なかよし集会に向けて、各学級や各学年で練習をしてきました。久しぶりに全校で歌を歌いましたが、音の重なりもすてきで体育館中に響き渡るすばらしい合唱でした。感動しました。伴奏は5年生児童のピアノ、職員のフルート、マンドリン、ギターでした。「子供も大人も ともに」作り上げたなかよし集会でした。



一人一人が自分も周囲の人も大切にする心もち、譲り合い、助け合い、自分を許す心や相手を許す心もち、素直で、いつも「ありがとう」という気持ちをもつことがとても大切なのではないかと思います。

私は「謙虚さ」ということを一番大切にしています。いかがでしょうか。

保護者や地域の皆様も、子供たちとともに「人権」の大切さについて今一度話をしてみたいはいかがでしょうか。きっと自分も周囲の人たちも温かで優しい気持ちになるのではないかと思います。